



栄えある国際賞の受賞を祝す

トピックス

マリナグ国際賞を受賞して

磯根資源部長 桐原 慎二

去る3月に神戸市で第18回国際海藻シンポジウムが開催されました。同シンポジウムは3年ごとに開催され、海藻関係の学会会議としては歴史も規模も世界最大で、今般は47カ国600名余りが参加し360題の研究が発表されました。その開会式で、大会長賞にあたる、マリナグ国際賞を受賞したのでご報告します。本国際賞は西澤一俊東京教育大学名誉教授、大野正夫高知大名誉教授に次いで日本人では3人目の栄誉だそうで、少々驚いております。授賞対象となったのは、3年前のノルウェー・ベルゲン市で開催された同シンポジウムで発表し、昨年、国際学術雑誌に論文が掲載された「大間崎における寒暖海性コンブ類の分布と生育量の変化、Recent fluctuations in distribution and biomass of cold and warm temperature

species of Laminariales at Cape Ohma, northernmost of Honshu, Japan」です。大間崎の長期的水温上昇がツルアラメなどの雑海藻の繁茂に影響したことを著したもので、センター日より95号から100号に連載した「磯焼けと対策」シリーズにも内容の一部が書かれております。これまでの地道な調査が評価されたものであり、この場をお借りして調査にご協力いただいた多くの方々、また、水温を解析していただき昨年3月に当所を退職された共著者の仲村俊毅さんに、深く感謝申し上げます。

これを励みに、これからも積極的に磯根資源の増養殖技術開発に取り組みたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。